

自然災害発生時における業務継続計画

法人名	株式会社 デザインマインド カンパニー	種別	通所介護
代表者	松田 一樹	管理者	今関 昇子
所在地	千葉県船橋市 西習志野 1-1-4	電話番号	047-467-0799

令和4年12月24日作成

目次

1. 総論.....	1
(1) 基本方針.....	1
(2) 推進体制.....	1
(3) リスクの把握.....	1
① ハザードマップなどの確認.....	1
② 被災想定.....	1
(4) 優先業務の選定.....	2
① 優先する事業.....	2
② 優先する業務.....	2
(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し.....	2
① 研修・訓練の実施.....	2
② BCPの検証・見直し.....	3
2. 平常時の対応.....	3
(1) 建物・設備の安全対策.....	3
① 人が常駐する場所の耐震措置.....	3
② 設備の耐震措置.....	3
③ 水害対策.....	
(2) 電気が止まった場合の対策.....	3
(3) ガスが止まった場合の対策.....	3
(4) 水道が止まった場合の対策.....	4
① 飲料水.....	4
② 生活用水.....	
(5) 通信が麻痺した場合の対策.....	4
(6) システムが停止した場合の対策.....	4
(7) 衛生面（トイレ等）の対策.....	4
① トイレ対策.....	4
② 汚物対策.....	4
(8) 必要品の備蓄.....	4
(9) 資金手当て.....	5
3. 緊急時の対応.....	6
(1) BCP発動基準.....	6
(2) 行動基準.....	6
(3) 対応体制.....	7
(4) 対応拠点.....	7
(5) 安否確認.....	8
① 利用者の安否確認.....	8

② 職員の安否確認.....	8
(6) 職員の参集基準.....	8
(7) 施設内外での避難場所・避難方法.....	9
(8) 重要業務の継続.....	
(9) 職員の管理.....	9
① 休憩・宿泊場所.....	9
② 勤務シフト.....	9
(10) 復旧対応.....	
① 破損個所の確認.....	9

1. 総論

(1) 基本方針

施設・事業所としての災害対策に関する基本方針を記載する。

・災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることから、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方を防災の基本方針とし、たとえ被災したとしても人命が失われない事を最重視し、また経済的被害ができるだけ少なくなるよう、様々な対策を組み合わせることで災害に備えなければならない。

・防災には、時間の経過とともに災害予防、災害応急対策、災害復旧・復興の三段階があり、それぞれの段階において国、公共機関、地方公共団体、事業者、住民等が一体となって、最善の対策をとる事が被害の軽減に繋がる。

(2) 推進体制

平常時の災害対策の推進体制を記載する。

(記入フォーム例)

主な役割	部署・役職	氏名	補足
責任者	本部・統括	井上 浩和	代行者：今関 昇子
災害対策本部長	管理者	今関 昇子	代行者：青柳 和義
外部担当班	介護職員	下村 昌代	代行者：今関 昇子
救護班	看護職員	石森 和恵	代行者：浅利 美恵
利用者対応班	機能訓練指導員	青柳 和義	砂田 公恵
	機能訓練指導員	田口 文隆	齊藤 明美
			上原 麻衣子
			佐藤 真智子
			横山 恵子
			三沢 三千代

(3) リスクの把握

① ハザードマップなどの確認

別紙として巻末に添付

② 被災想定

大きな被害が予想される災害について、自治体が公表する被災想定を整理して記載する。

【自治体公表の被災想定】

千葉県北西部直下型地震の場合

- ・地震の揺れの強さ：平均震度6強（よても強い揺れが予測される）
- ・液状化の危険性：危険性は低い
- ・建物被害：全半壊率 22%
- ・人的被害：死傷者予測数 333 人（主に建物被害）
- ・水害の危険性：河川沿いに危険性あり
- ・津波の危険性：浸水面積割合 0%

優先業務の選定

① 優先する事業

<優先する事業>

- （1）独居・要介護者の受け入れ
- （2）同居・事業対象者・要支援者の自宅及び避難所への送迎・安否確認

<当座停止する事業>

- （1）同居・事業対象者・要支援者の受け入れ

② 優先する業務

（記入フォーム例）

優先業務	必要な職員数			
	朝	日中	夕	夜間
与薬介助	0 人	3 人	0 人	0 人
排泄介助	0 人	1 人	0 人	0 人
食事介助	0 人	0 人	0 人	0 人
・・・	人	人	人	人
・・・	人	人	人	人

（4）研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

① 研修・訓練の実施

避難訓練：（常勤・非常勤）3月・9月及び、必要の都度防火・防災教育の実施
（新入社員）採用時または必要の都度防火・防災の実施

② BCPの検証・見直し

- ・避難訓練実施の同月に従業員ミーティングを行い、評価と改善点を話し合う。
- ・議事録を作成し、本部統括に承認を依頼する。

2. 平常時の対応

(1) 建物・設備の安全対策

① 人が常駐する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
避難訓練	障害物の撤去	
事務室	ロッカーやファイル棚の突っ張り棒	
フロア	背の高い家具は設置しない 割れ物はキッチン棚へ収納	
天井・柱・壁・床	傾き、ひび割れ、欠損の日常的なチェック	

② 設備の耐震措置

対象	対応策	備考
消火器	点検(安全栓、損傷、使用期限)	毎週金曜日
自動火災報知機	点検(表示灯の点灯)	毎週金曜日
給湯器	点検(配管の損傷等)	毎日

③ 水害対策

対象	対応策	備考
建物全体	水害の危険性は低い、注意報・警報の確認を随時行う。	

(2) 電気が止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替策を記載する。

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
固定電話	携帯電話 3 台
PC	スマートフォン

(3) ガスが止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と代替策を記載する。

稼働させるべき設備	代替策
給湯器	カセットコンロ

(4) 水道が止まった場合の対策

被災時に必要となる飲料水および生活水の確保を記載する。

① 飲料水

備蓄：利用者 25 名、従業員 9 名と想定。

20ペットボトル 35 本×3 日分。紙コップ 40 個。

② 生活用水

トイレ排水用備蓄：ポリタンク 150×5 個

(5) 通信が麻痺した場合の対策

使用可能通信

- ・スマートフォン 3 台
- ・スマホメール 3 台
- ・iPad 1 台

※常時充電を行っておく。

(6) システムが停止した場合の対策

- ・日常業務の記録(業務日誌・利用者様ファイル・送迎記録等)⇒手書き
- ・データ類の喪失防止⇒USB

※PC、重要書類は浸水しない場所に保管しておく

(7) 衛生面（トイレ等）の対策

① トイレ対策

- ・排水用ポリタンクの備蓄
- ・簡易トイレの設置

※女性職員の為に、生理用品を備蓄しておく。

② 汚物対策

- ・密閉ポリバケツの用意
- ・ビニール袋の備蓄

※保管場所：駐車場脇

(8) 必要品の備蓄

【飲料・食品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
飲料水	2035 本		倉庫	下村 昌代

非常食	50 袋		倉庫	下村 昌代
割り箸	50 膳		キッチン	下村 昌代
紙コップ	50 個		キッチン	下村 昌代

【医薬品・衛生用品・日用品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
トイレットペーパー	12 ロール		倉庫	田口 文隆
ティッシュペーパー	5 箱		倉庫	田口 文隆
アルコール消毒	3ℓ		倉庫	田口 文隆
マスク	2 箱		倉庫	田口 文隆
リハビリパンツ	1 袋(M)		倉庫	田口 文隆
リハビリパンツ	1 袋(L)		倉庫	田口 文隆
血圧計	5		フロア	石森 和恵
体温計	5		フロア	石森 和恵

【備品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス担当
サランラップ(大)	2 本	キッチン	下村 昌代
ラジオ	1 台	フロア	下村 昌代
スマートフォン	3 台	事務所	今関 昇子
電池	1 パック	事務所	今関 昇子
懐中電灯	1 個	事務所	今関 昇子
毛布・ひざ掛け	35 枚	フロア	下村 昌代

(9) 資金手当て

・小口現金 3 万円前後

3. 緊急時の対応

(1) BCP発動基準

【地震による発動基準】

- ・船橋市北西部で震度5以上の地震が発生した場合。
- ・その他、本部・統括が必要と判断した場合にも発動する。

【水害による発動基準】

- ・近隣河川の氾濫警報があり、避難勧告が発令された場合。
- ・その他、本部・統括が必要と判断した場合にも発動する。

また、管理者が不在の場合の代替者も決めておく。

管理者	代替者①	代替者②
今関 昇子	青柳 和義	下村 昌代

(2) 行動基準

第一配備（発動対応）

- ・船橋市北西部で震度5強以上、又は河川の氾濫警報
- ・参集対象者：管理職（震度5強）
常勤（震度6弱）
※発災時に参集不可能な職員は除く事とする。
- ・行動内容：利用者の安全確認、設備点検、被害状況確認、本部報告、各機関との連絡調整、BCP発動の検討。

第二配備（BCP発動）

- ・船橋市北西部で6弱又は河川の氾濫による避難勧告
- ・参集対象者：管理職（震度5強）
常勤（震度6弱）
全員（震度6強）
※発災時に参集不可能な職員は除く事とする。
- ・行動内容：災害対策本部の設置
利用者の安全確認、設備点検、被害状況確認、本部報告、各機関との連絡調整、職員の安全確認、参集状況確認。
BCPの対応体制の構築と行動。

(3) 対応体制

災害対策本部

責任者：井上 浩和（本部・介護事業部統括）

- ・ BCP 発動判断
- ・ 決定事項の伝達
- ・ 資金管理、調達
- ・ 行政機関との連絡、調整
- ・ その他の必要業務

責任者代理：今関 昇子（粋生倶楽部高根台・管理者）

- ・ 情報収集、整理
- ・ 各班の実施業務、人員の調達
- ・ 利用者、職員の安否確認
- ・ 個人情報書類、持ち出し書類の管理

救護班

責任者：石森 和恵（看護師）

- ・ 負傷者への応急処置
- ・ 利用者、職員の健康状態の把握

責任者代理：浅利 美恵（准看護師）

- ・ 医療機関との連絡調整
- ・ 水分及び食事提供

外部担当班

責任者：青柳 和義（機能訓練指導員）

- ・ 利用者、家族との連絡調整
- ・ 必要なサービスの提供、調整

責任者代理：下村 昌代（介護職員）

- ・ 利用者、家族の被害状況の把握と整理

(4) 対応拠点

第1候補場所	第2候補場所	第3候補場所
粋生倶楽部 高根台 事務所	粋生倶楽部 高根台 フロア	

(5) 安否確認

① 利用者の安否確認

【安否確認ルール】

- ・ 外部担当班が中心となり、スマートフォンにて本人、緊急連絡先に連絡を行う。

【医療機関への搬送方法】

- ・ 救護班が中心となり、負傷者の状態の把握を行う。
- ・ 医療機関への搬送が必要と判断した場合は、ドライバーが中心となり送迎車にて搬送する。

② 職員の安否確認

- ・ グループ LINE での一斉連絡。
- ・ 緊急連絡網に従い、電話連絡。

(6) 職員の参集基準

参集に関しては行動基準による。

※全職員はグループ LINE に安否、出勤の可否を回答する。

※出勤可能な場合は、行動基準に従い、安全に留意し事業所に参集する。

※出勤可能な場合でも、安全確保の為、夜間及び日没直前には出勤しない。

(7) 施設内外での避難場所・避難方法

【施設内】

	第1避難場所	第2避難場所
避難場所	粹生倶楽部高根台 フロア	
避難方法		

【施設外】

	第1避難場所	第2避難場所
避難場所	高郷小学校	高根台中学校
避難方法	送迎車	送迎車

(8) 職員の管理

① 休憩・宿泊場所

休憩場所	宿泊場所
粹生倶楽部高根台	粹生倶楽部高根台

② 勤務シフト

震災発生後、職員が長期間帰宅できず、長時間勤務となる可能性がある。参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むよう災害時の勤務シフト原則を検討しておく。

【災害時の勤務シフト原則】

- ・二人以上でのシフト
- ・常勤+非常勤のペア
- ・看護師及び機能訓練指導員の指示が仰げる体制

(9) 復旧対応

① 破損個所の確認

<建物・設備の被害点検シート例>

	対象	状況 (いずれかに○)	対応事項/特記事項
物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	
	エレベーター	利用可能／利用不可	

		電気	通電 / 不通	
		水道	利用可能／利用不可	
		電話	通話可能／通話不可	
		インターネット	利用可能／利用不可	
		．．．		
	建物・設備 (フロア単位)	ガラス	破損・飛散／破損なし	
		キャビネット	転倒あり／転倒なし	
		天井	落下あり／被害なし	
		床面	破損あり／被害なし	
		壁面	破損あり／被害なし	
		照明	破損・落下あり／被害なし	
		．．．		

防災関連施設分布図

東部 地域

地区番号: 22

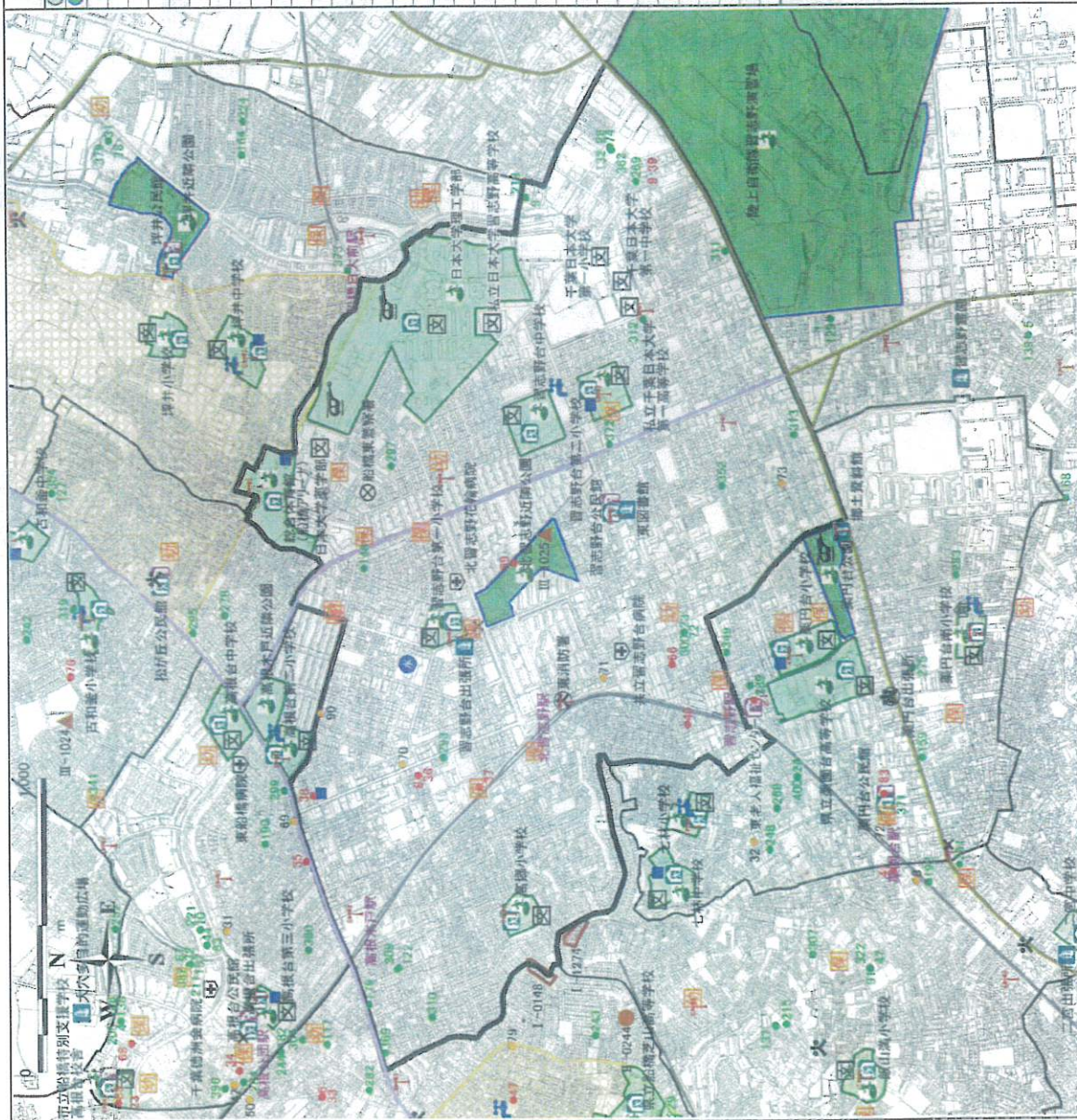
○地震被害想定結果

千葉県北西部直下地震のケース			
●原因別建物被害想定			
原因	全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	
地震動 (揺れ)	587	75	1,021
地震の液状化	0	0	1
合計	587	75	1,021
急傾斜地崩落	0	0	1
設計	662	1,205	
割合 (31地区)	7.7%	14.0%	
市の合計	11,448	20,770	
割合 (市域)	5.8%	5.8%	
●ケース別火災被害想定			
	冬5時	冬18時	夏12時
焼失棟数 (棟)	87	403	105
市の合計 (棟)	1,300	5,862	1,365
割合 (市域)	6.7%	6.9%	7.7%
●冬18時 (風速8m/s) のケースでの人的被害想定			
●冬18時の地区内の滞留人口 37,058 人			
原因	死者 (人)	重傷者 (人)	負傷者 (人)
建物被害	31	44	198
火災 (延焼拡大)	20	10	27
急傾斜地崩落	0	0	0
ブロック塀等	0	1	2
合計	51	55	226
市の合計	789	847	3,569
割合 (市域)	6.5%	6.5%	6.3%
●自力脱出困難者数と避難所避難者数*			
	自力脱出困難者数 (冬5時)	避難所避難者数 (冬18時)	
地区合計	337	7,635	
市の合計	4,907	105,544	
割合	6.86%	7.23%	

※ 避難所避難者数は、最大となる被災3日後に、市の宿泊可能避難所に避難する人の数を想定しています。
注: 建物・人的被害の数値は小数点以下を四捨五入しており、表の合計値と合致しない場合があります。

○防災上の課題

- ・千葉県北西部直下地震の際には、地区の東側を中心に震度6強の強い揺れが予測され、建物被害も広く分布する。液状化の危険性は河川沿いの谷底低地などの範囲で限定的である。
- ・他地区と比較すると、相対的に火災による被害量が多く、特に地震発生が冬18時の場合、約400棟の焼失被害の発生が想定される。地震ブレーカーの設置などの火を出さない取組みのほか消火活動など、日頃の防火対策や消火訓練等の活動が重要となる。
- ・地区西部の飯山瀧川の蛇行部に浸水被害が予測され、実際に浸水事例があった。また台地上の凹地などでも道路冠水事例が比較的多く、地盤への浸透能力や排水能力の向上が課題となる。



平成30年度作成

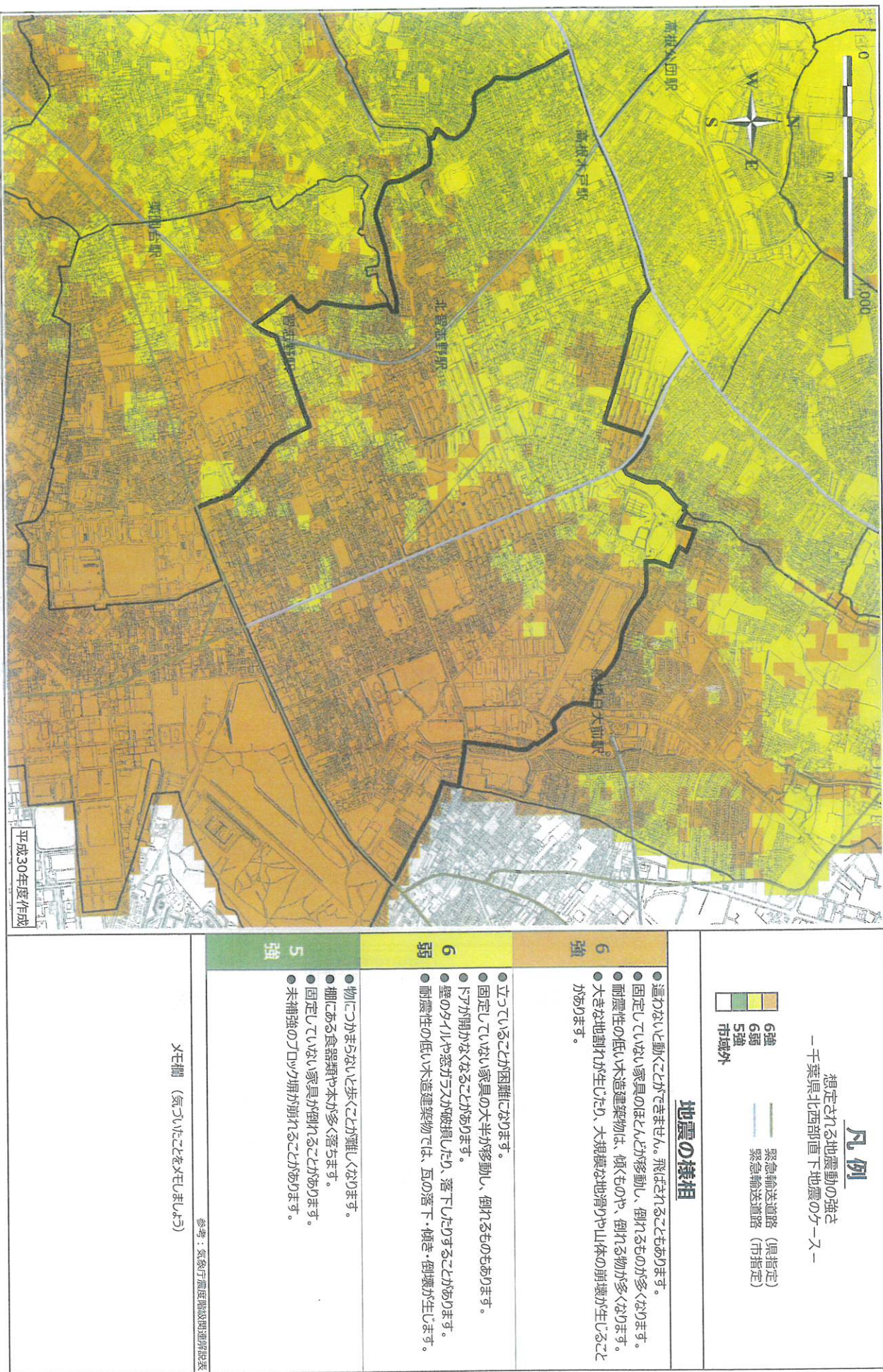
地震危険性分布図 (想定震度)

22. 習志野台地区

東部 地域

地区名：習志野台

地区番号：22



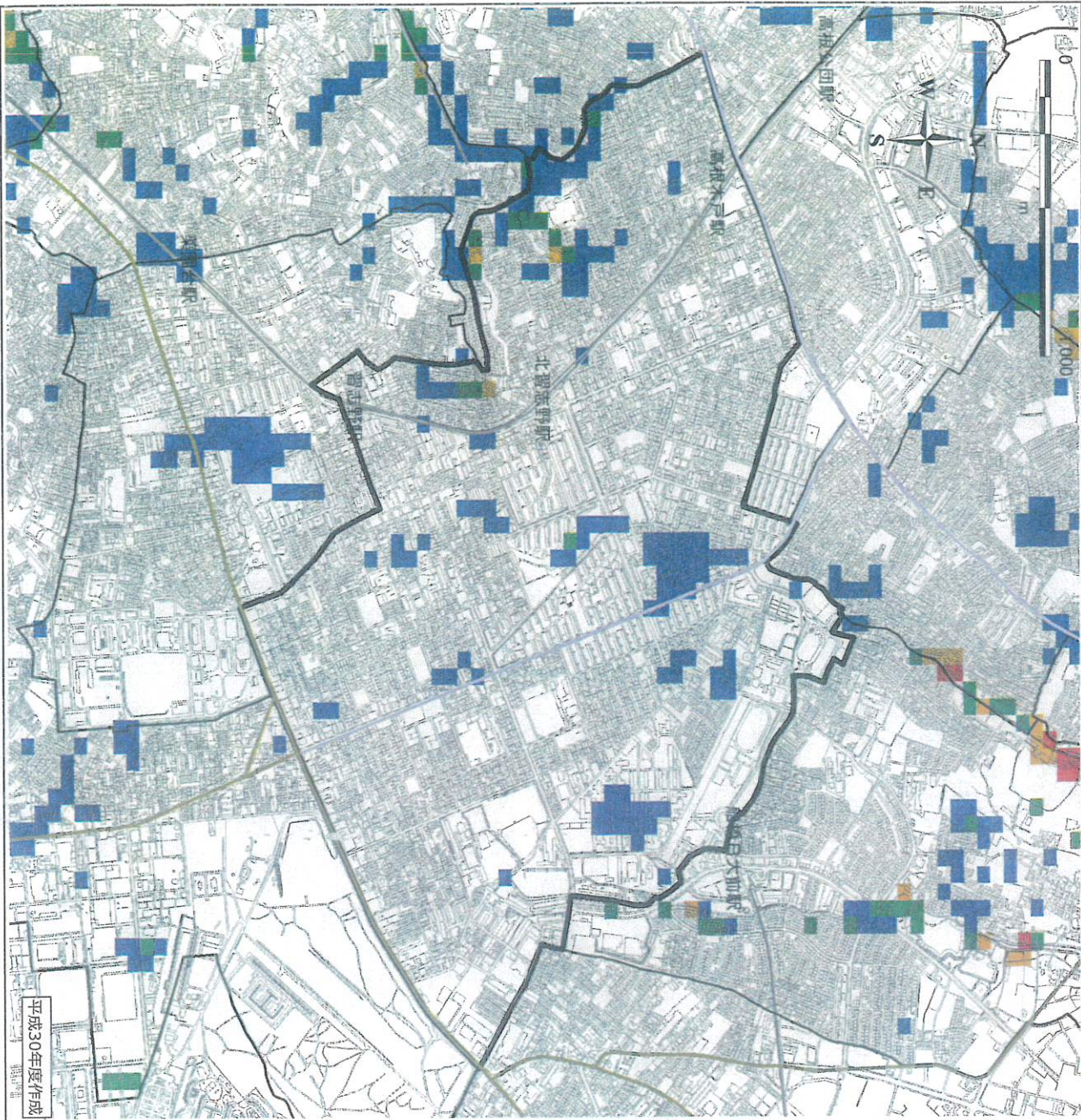
地震危険性分布図 (液状化)

2.2. 習志野台地区

東部 地域

地区名: 習志野台

地区番号: 22

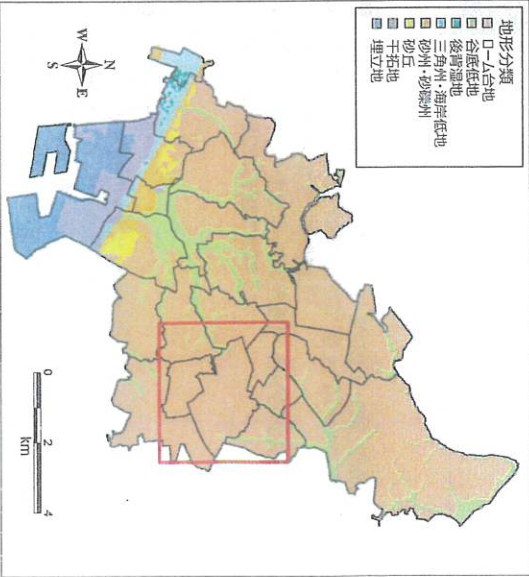


凡例

想定される液状化の危険性
—千葉県北西部直下地震のケース—



地形分類図



※平成22年度「船橋市防災マネジメント調査及び地区別防災カルテ作成業務報告書」より抜粋

※王欄 (気ついたことを王し、う)

地震危険性分布図 (建物被害)

2.2. 習志野台地区

東部 地域

地区名：習志野台

地区番号：22

凡例

想定される建物被害 (半壊以上)
— 千葉県北西部直下地震のケース—



●原因別建物被害想定

原因	全壊棟数 (棟)		半壊棟数 (棟)	
	木造	非木造	木造	非木造
地震動 (揺れ)	587	75	1,021	183
地震の液状化	0	0	1	0
合計	587	75	1,021	183
急傾斜地崩落	0	0	0	1
総計	662	75	1,205	183
割合 (対地区)	7.7%	0.9%	14.0%	2.1%
市の合計	11,448	20,770	20,770	20,770
割合 (対市被害)	5.8%	0.4%	5.8%	0.9%

注：建物・人的被害の数値は、数値以下の四捨五入してあり、表の合計値と合致しない場合があります。

●地震への対策

被害想定の数値を公表する目的は、被害の数を知ってもらうことではありません。その被害の中に、皆さん自身や家族が巻き込まれてしまわないように、一人ひとりが努力するきっかけとなることを目的としています。

地震の強さそのものを弱めることはできませんが、強い家へ建て替えたり、家具の固定を進めたりすることで、被害量を減らすことが出来ます。

皆さんの地震対策について、以下の事例が当てはまるかどうか、チェックしてみましょう。

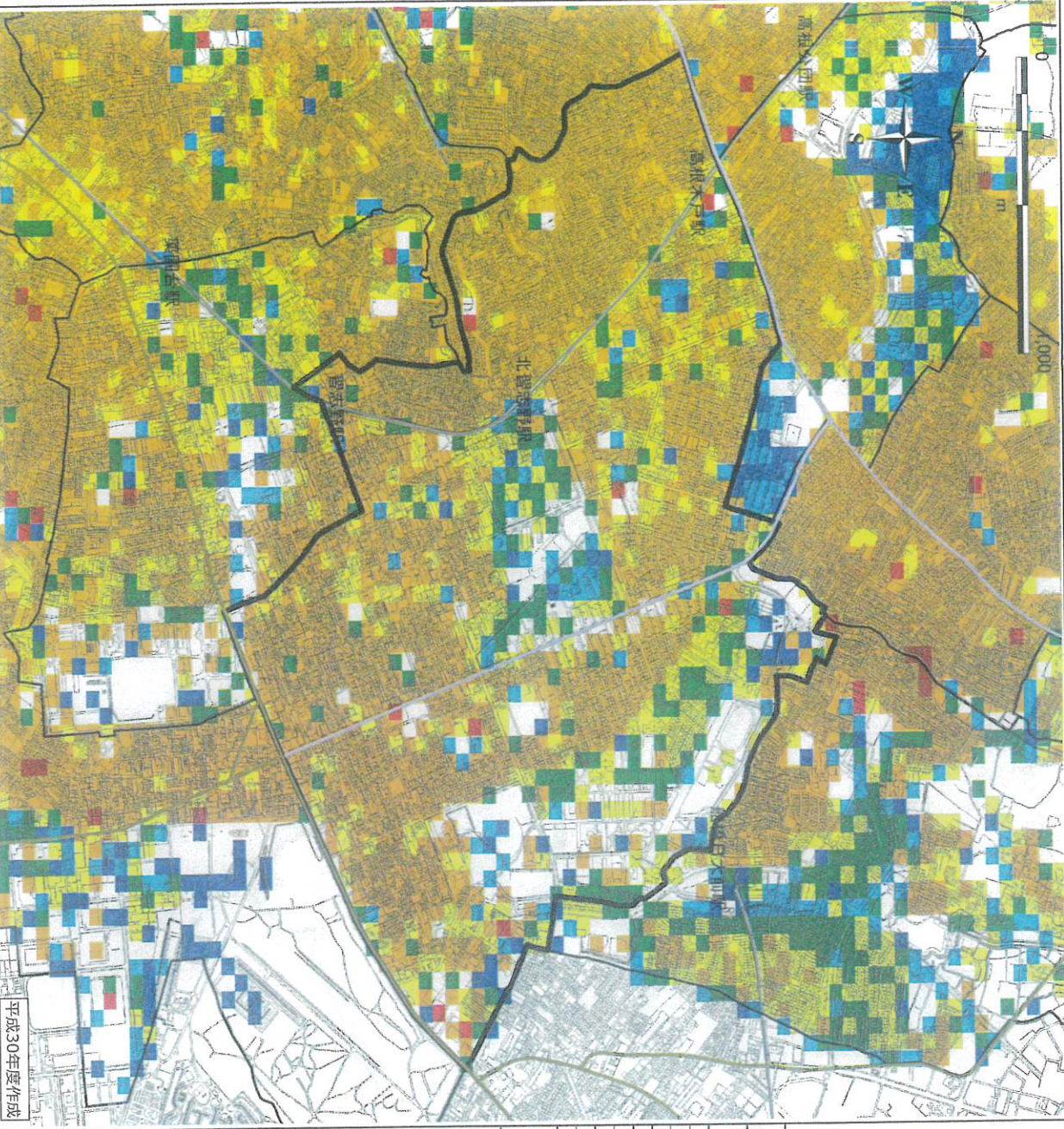
【住宅の耐震性】(昭和56年6月以前に建てられた家に住んでいる方)

- ☐ 家の耐震診断を受けた。
☐ 家の耐震改修をした。

【家具の固定など】

- ☐ 家具は倒れないように固定されている。
☐ 家具の上に危険な物を置かないようになっている。
☐ 寝る場所の近くには、倒れてきそうな家具はない。
☐ 万が一、家具が倒れても、部屋の出口はふさがれない。
☐ 家具の固定器具や貼着性テープの点検を定期的に行っている。
☐ 地震リレーカーを設置している。

メモ欄 (気づいたことをメモしましょう)



平成30年度作成

水害・土砂災害危険性分布図

2.2. 習志野台地区

東部 地域

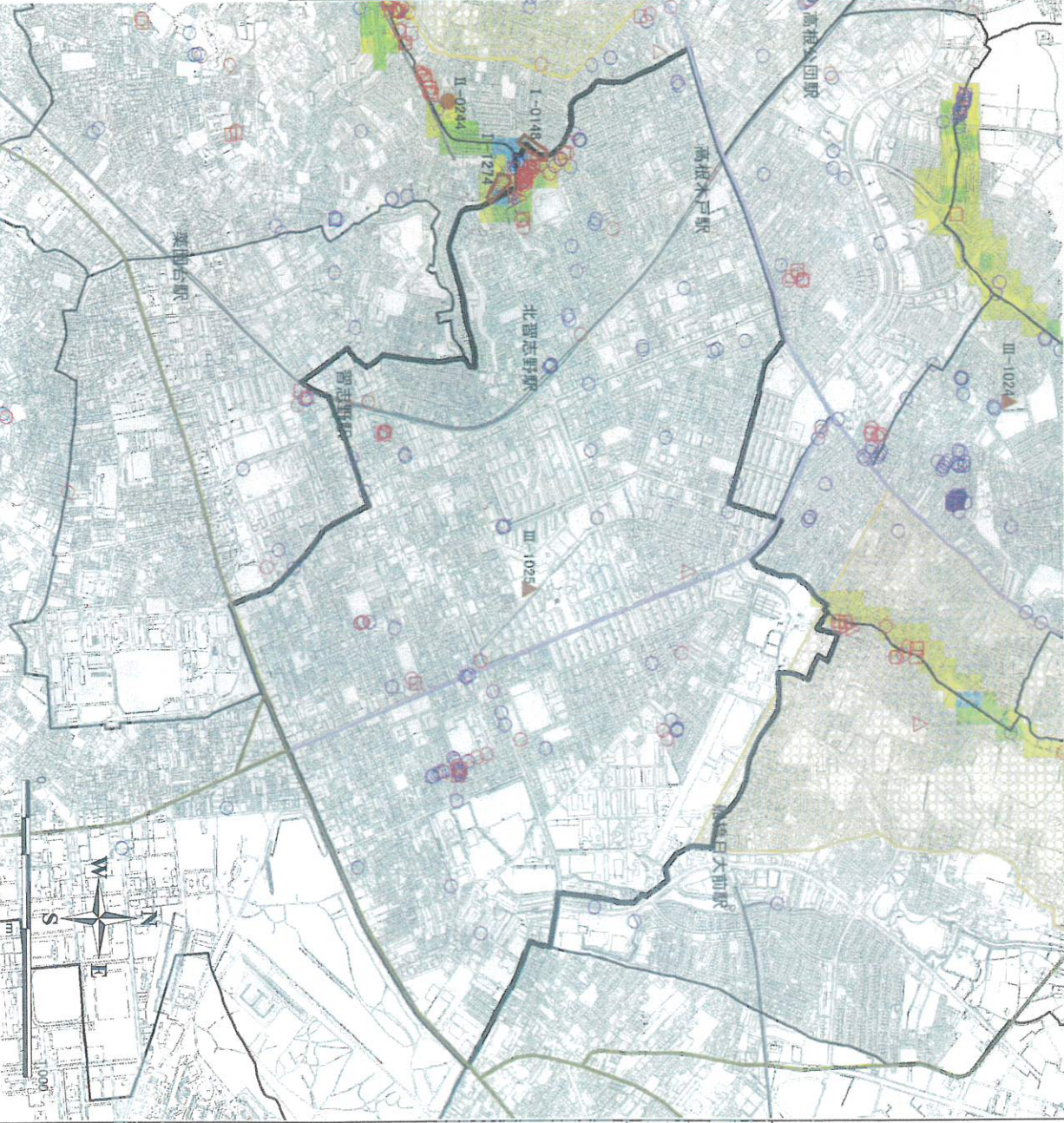
地区名：習志野台

地区番号：22

この地図の浸水域は、以下の前提に基づき、各河川が浸水した場合の浸水域を重ね合わせています。

- 利根川水系利根川（想定最大）：
利根川流域、八斗島上流域の72時間
総雨量491mm（利根川上流河川事
務所、利根川下流河川事務所、平成
29年）
- 利根川水系江戸川（想定最大）：
利根川流域、八斗島上流域の72時間
総雨量491mm（江戸川事務所、
平成29年）
- 利根川水系真間川（二和川）：昭
和33年9月洪水（野川台風）最大
60mm/h、総雨量332mm（千葉県
真間川改修事務所、平成18年）
- 海老川水系海老川（長津川、飯山満
川）：最大70mm/h、24時間で総雨
量252.5mm（千葉県葛南地域整備
センター、平成18年）
- 13河川（上長津川、貝塚川、長津川、
前原川、中野木川、飯山満川、念田川、
北谷津川、木戸川、三咲川、駒込川、
鈴身川、海老川）の外水氾濫と内水
氾濫（対象：湊町地区（全域）・宮
本地区（湊町地区と接している西部の
一部））：最大70mm/h、24時間で
総雨量252.5mm
（木戸川、三咲川、駒込川、鈴身川は
最大64mm/h、総雨量206.0mm）
（船橋市、平成19年）
- 室戸台風級（911hPa）（国土交通
省 港湾局、平成21年）

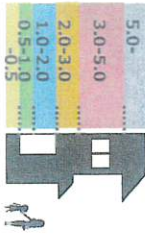
この地図の高潮被害の可能性のある区
域は、以下の想定結果を用いています。



平成30年度作成

凡例

水害危険性の分布
河川からの想定浸水深さ(m)



- 高潮被害の可能性のある区域
- 緊急輸送道路（県指定）
- 緊急輸送道路（市指定）
- 堤防など
- 水門
- 陸こう
- 浸水の恐れがあるワンダー/V
- 重要水防区域

通報・警戒等による水害活動履歴
H24以前 H25～H29
床上浸水
床下浸水
道路冠水

- 土砂災害危険性の分布
- 土砂災害危険箇所（県公策）：急傾斜地
- I：人家が5戸以上
- II：人家が1～4戸
- III：住宅等立地可能性有
- 宅地造成工事規制区域

※王冠（気づいたことをメモしよう）

避難情報 (水害)

22. 習志野台地区

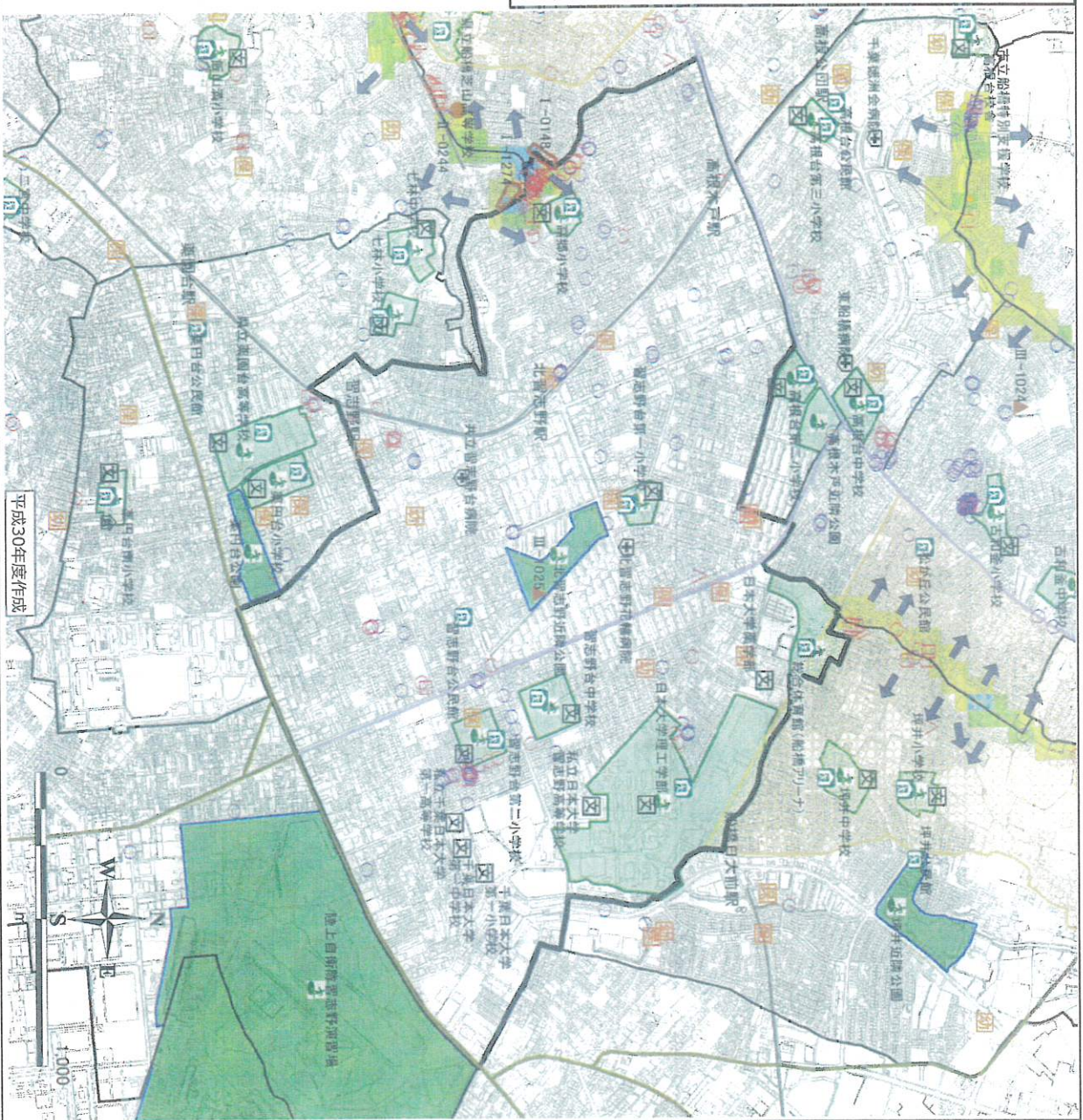
東部 地域

地区名: 習志野台

地区番号: 22

この地図の浸水域は、各河川が浸水した場合の浸水域を重ね合わせています。前提条件は、様式6を参照してください。

- 避難に関する考え方 (水害)
 - ・避難は浸水域外へ向かうことを原則とします。避難勧告の発令や、テレビ、ラジオ等で最新の情報に注意し、危険を感じた場合は早めの避難を行ってください。
 - ・氾濫が既に発生している場合など、浸水域外へ避難することによって命に危険が及ぶ可能性がある場合は、近隣の頑丈な建物(鉄筋コンクリート造ビルは鉄筋鉄骨コンクリート造の建物など) のなるべく上階へ避難してください。
 - ・地下街や地下室等は浸水する恐れがあるため、速やかにその場を離れ、安全な場所に避難してください。
 - ・浸水想定は一定の仮定を与えて算出していることから、その区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることに留意してください。このため、危険を感じた場合は、想定にらわれずに避難してください。
 - ・災害時に備えて、平常時から大雨による浸水や土砂災害の危険箇所を確認し、自宅や職場、学校等から安全な場所までの経路の確認をお願いします。



凡例	
水害危険性の分布 河川からの想定浸水深さ(m)	
	高潮被害の可能性のある区域
	一時避難場所 (浸水域外)
	宿泊可能避難所 (浸水域外)
	防災倉庫
	水防倉庫
	災害拠点病院、災害医療協力病院
	保育園
	幼稚園
	学校、大学等
	浸水域内の福祉施設
	緊急輸送道路 (県指定)
	緊急輸送道路 (市指定)
	堤防など
	水門
	陸ごう
	浸水の恐れがあるアタリ/バ
	重要水防区域
	水害からの避難方向
	通報・警戒等による水害活動履歴 H24以前 H25～H29
土砂災害危険性の分布	
土砂災害危険箇所 (県公表) : 急傾斜地	
	I : 人家が5戸以上
	II : 人家が1～4戸
	III : 住宅等立地可能性有
	宅地造成工事規制区域
※モロ欄 (気づいたことをお知らせ)	

習志野台地区内の一時避難場所・広域避難場所・宿泊可能避難所一覧

東部 地域 地区名：習志野台

地区番号：22
平成30年度作成

施設名	所在地	電話 FAX	海拔	一時避難 場所※ (972277)	広域避難 場所※	災害種別							宿泊可能 避難所	屋外有効面積 屋外収容人員	(被災直後)		最寄りの町丁目名
						洪水	高潮	土砂	津波	火災	火災	山			屋内有効面積 (70%) 屋内収容人員	屋内有効面積 (50%) 屋内収容人員	
習志野台第一小学校	習志野台2-51-1	466-1010 466-1042	26m	○	-	○	○	○	○	○	○	○	4,426㎡ 2,950人	5,567㎡ 2,783人	3,976㎡ 994人	習志野台1～8丁目	芝山6・7丁目、七林町
習志野台第二小学校	習志野台5-43-1	465-2199 465-2140	28m	○	-	○	○	○	○	○	○	○	7,229㎡ 4,819人	7,647㎡ 3,823人	5,462㎡ 1,365人	習志野台1～8丁目	
高郷小学校	西習志野1-47-1	465-5252 465-5253	24m	○	-	○	○	○	○	○	○	○	4,448㎡ 2,965人	4,598㎡ 2,299人	3,284㎡ 821人	飯山満町3丁目、西習志野1～4丁目、芝山6・7丁目、七林町	
習志野台中学校	習志野台6-23-1	466-1310 466-6999	29m	○	-	○	○	○	○	○	○	○	12,543㎡ 8,362人	6,934㎡ 3,467人	4,953㎡ 1,238人	習志野台1～8丁目	
日本大学理工学部	習志野台7-24-1	469-5330 -	28m	○	-	○	○	○	○	○	○	○	50,690㎡ 33,793人	2,933㎡ 1,466人	2,095㎡ 523人	習志野台1～8丁目、坪井町、坪井西1・2丁目、坪井東1～6丁目、松が丘4・5丁目、高根台5丁目	
北習志野丘陵公園	習志野台3-4-1	464-1555 -	25m	-	○	○	○	○	○	○	○	-	13,488㎡ 8,992人	-	-	習志野台1～4丁目	
総合体育館（船橋アリーナ）	習志野台7-5-1	461-5611 461-4220	26m	○	-	○	○	○	○	○	○	○	15,752㎡ 10,501人	2,357㎡ 1,178人	2,357㎡ 589人	高根台5丁目、坪井町、坪井西1・2丁目、坪井東1～6丁目、習志野台1～8丁目、松が丘4・5丁目	
習志野台公民館	習志野台5-1-1	463-2231 467-6031	29m	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	807㎡ 403人	576㎡ 144人	習志野台4～8丁目	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

：防災用井戸設置場所 ：マンホールトイレ設置場所

※ 一時避難場所及び広域避難場所については、洪水、高潮、土砂、地震、津波、大規模な火災、火山現象等の災害時を対象とします。ただし、×の記載がある災害時には、当該避難場所へは避難できません。

習志野台地区周辺の避難施設等

施設名	所在地	施設名	所在地
陸上自衛隊習志野演習場	習志野3-1	高根台第二小学校	高根台5-2-1
薬丹台公園	薬丹台4-25-19	高根台第三小学校	高根台1-4-1
薬丹台小学校	薬丹台4-5-1	-	-
七林小学校	七林町115-13	-	-

避難施設のおらまし

一時避難場所		一時的に避難するための場所で、学校の校庭や公園など屋外のオープンスペースです。
広域避難場所		火災の延焼の危険性があるとき、一時的に避難する場所で、安全確保のため一定の広さを有する屋外のオープンスペースです。
宿泊可能避難所		自宅では生活できない被災者への宿泊や食料などを提供する屋内の仮宿泊施設で、主に学校の体育館などを受け入れ場所とします。